

基礎分野（13 単位、360 時間）

科目名		単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
基礎分野	論理学	1	30	1	外部講師	物事を論理的に思考し、客観的に評価できるものの見方、考え方を養い、論理的な文章表現を理解する。科学的思考力を養う基盤とする。
	情報科学	1	30	2	外部講師	情報の集め方、結果の分析・判断・推論の仕方について学び、コンピュータを活用した情報処理の方法が理解できる。
	哲学	1	30	2	外部講師	ものの見方・考え方は誰もが持っており、知らずのうちに行動の基準としている。自分自身を含め人間の存在や価値について理解を深め、人間の QOL について考えることの重要性を理解する。また人間の生命尊重・人権尊重の重要性について理解する。
	心理学	1	30	1	外部講師	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、人間理解を深める。
	社会学	1	30	1	外部講師	社会現象の実態や現象の起こる原因に関するメカニズムを知り、現代社会を生きる人々や社会の見方について理解する。特に小子高齢社会に伴い、家族のあり方、家族関係の変化について理解を深める。少子高齢社会に伴い、家族のあり方、家族関係の変化について理解を深める。
	教育学	1	30	1	外部講師	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性を引き出すための教育の意義、方法を学び看護における教育活動に応用できる能力を養う。
	外国語 I II	3	75 <45> <30>	1 2	外部講師	国際化社会に対応しうる能力を養うため、日常生活において簡単な英会話ができるようにする。更に、カルテの病状経過の解読や海外の文献に触れることができるような基礎を身につける。
	体育	2	60 <30> <30>	1	外部講師	体力を增強し、健全な身体の発達を図り、自己の体力づくり、健康維持に努める。リーダーシップ・メンバーシップのあり方を理解し、レクリエーション指導の基礎を理解する。
	人間関係論	2	45 <30> <15>	1 3	外部講師	人間関係の形成は、看護及び各専門職との連携を図る上での基盤となる。そのためまずは、自分自身や周囲との人間関係を見つめ、関係がより一層円滑なるよう行動できる能力を養う。更に医療従事者に必要な人間関係のダイナミズムに対する理解を深め、目的に応じて役割関係を展開する人間関係能力を養う。また、看護においては相手の思いを傾聴・共感する態度、能力は必須である。カウンセリング技法を学ぶことによりその能力を養う。

専門基礎分野（21 単位、510 時間）

科目名		単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
専	解剖生理学 I	4	120 <30>	1	外部講師	人体の発生、構成について理解し、形態と機能（運動・生理も含む）を系統的に理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力の基盤となる知識を習得させる。さらに解剖見学を通して、人体の構造の理解を深める。
	II		<30> <30>	1		
	III		<30>	1		
門	生化学	1	30	1	外部講師	人体の構成成分である化学物質の性状、その分布および代謝について理解する。人間が生きていくために生体内でどのようなことが行われ生命活動を営んでいるのかを分子レベルで理解する。
	栄養学	1	30	1	外部講師	人間にとっての栄養の意義を認識し、食事療法の基本を理解する。また、実際に調理を行い、治療食を調理・試食することで、治療食を摂取する患者に対して生活指導が行えるための具体的な実践力へと結びつける。
基	薬理学	2	45 <30>	1	菅谷周子 他外部講師	薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。 臨床における看護師の薬に関するヒヤリ・ハットへの対策として必要な知識を理解する。
			<15>	2		
分	病態生理学 I	5	135 <15>	1	氏原葉子 他外部講師	病因と病変の特徴を理解し、代表的な系統別疾患の治療、検査について理解する。検体を通し実際の病変を見ることで特徴を理解する。
			<60> (8) (10) (6) (6) (8) (8) (8) (6)	1		
			<60> (12) (10) (8) (12) (10) (8)	2		
野	III	5	<60> (12) (10) (8)	2	氏原葉子 他外部講師	病因と病変の特徴を理解し、代表的な系統別疾患の治療、検査について理解する。検体を通し実際の病変を見ることで特徴を理解する。
			<60> (12) (10) (8)	2		

科目名		単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
専 門 基 礎 分 野	微生物学	2	45	1	外部講師	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び、その対応について理解する。特に感染症は全ての診療科に関連する重要な疾患である。また、近年の SARS の流行や新型インフルエンザの出現、耐性菌、院内感染など社会的にも大きな問題となっている。そのため、感染症の原因となる各種病原微生物及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を理解するとともに、各臓器に特徴的な感染症、人畜共通感染症、輸入感染症、エイズなど免疫低下患者に合併する日和見感染症、院内感染症、そして院内感染対策などについて学ぶ。
	健康科学	2	30 <15> <15>	1 2	外部講師	人々の健康の維持のために保健・医療・福祉の統合という今日的課題を軸に、その現状、問題点、背景を理解する。生活環境が心身の健康に及ぼす影響について理解する。また自身の健康を保つための精神衛生の在り方について理解する。
	社会保障	2	45 <30> <15>	1 2	菅谷周子 他外部講師	社会保障・社会福祉の理念と歴史を知り、現状と動向についての基礎的知識を身につける。社会福祉と医療・社会保障の関連について理解し、対象に必要な社会資源の活用を理解する。また海外の社会保障の在り方から日本の現状を見つめる。海外の社会保障についてグループごとにテーマを持ち日本との比較検討を主体的に行うことで学びを深める。
	看護と法律	2	30 <17> <13>	2 2	松木和子 他外部講師	看護に必要な法令について理解する。看護職としての法的責任を自覚するとともに対象に必要な法を活用できるようにする。

基礎看護学 (10 単位 : 300 時間)

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
看護学原論Ⅰ	2	60	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念を学び、看護の位置づけと看護の役割の重要性を学ぶ。 2. 看護活動の場の拡大や専門性について学び、看護独自の機能・役割について学ぶ。 3. 看護に必要な倫理について考え、理解を深めるとともに倫理的態度の育成につなげる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基本となる概念 <ul style="list-style-type: none"> ・看護の本質 ・看護の対象としての人間の理解 ・人間と健康 2. 看護における倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・医療をめぐる倫理の歴史と患者の権利 ・倫理の原則 ・看護における倫理と課題 3. 看護活動とその専門性 4. 看護の実際 (病院・病棟見学) 5. 特殊な場における看護 <ul style="list-style-type: none"> ・国際看護 	松木和子 菅谷周子 須藤晃代 國田菜穂
看護学原論Ⅱ	1	30	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだ知識・経験を基礎にして、さらに人間・看護に関する理解を深め、看護観の育成を図る。 	看護学ゼミナール 主なテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学 ・エイズ ・カウンセリング ・看護とウェルビーイング ・救急看護 ・緩和ケア 	松下万里子 他外部講師
基礎看護方法論Ⅰ	3	90	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念を学び、看護を实践するうえで共通する基本技術を習得する。とくに模擬患者を活用した演習で、より実践に近いコミュニケーション能力を高める。 2. 対象に応じた看護を实践するために診断・治療・症状に伴う基本的な援助技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護方法論 学習法 2. 基本技術 <ul style="list-style-type: none"> ・観察・記録 ・コミュニケーション ・ボディメカニクス/姿勢 ・学習支援 ・感染予防 3. 看護過程 4. 診断・治療・症状に伴う援助① <ul style="list-style-type: none"> ・症状にあわせた看護 ・周手術期にある患者の看護 ・重症集中治療を受ける患者の看護 ・臨床看護技術 	中村明子 菅谷周子 桑原晴美 山田明子 今泉沙織 監物佳子 岡本千晶 他外部講師
基礎看護方法論Ⅱ	3	90	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に応じた看護を实践するために生活行動への援助を習得する。とくに各学習内容にフィジカルアセスメントを取り入れ、看護師として理論的な判断および倫理的な判断をするための基礎能力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 生活行動への援助 <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント ・活動と休息・移動 ・清潔・衣生活 ・食事 ・排泄 ・環境 	桑原晴美 内山泉 監物佳子 國田菜穂 岡本千晶
基礎看護方法論Ⅲ	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に応じた看護を实践するために診断・治療・症状に伴う基本的な援助技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 診断・治療・症状に伴う援助② <ul style="list-style-type: none"> ・診察・検査と看護 ・与薬と看護 	山田明子

成人看護学（6 単位：165 時間）

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
成人看護概論	1	30	1	1. 成人各期にある人の特長が理解できる。 2. 成人各期にある人の健康に及ぼす諸因子を理解し、健康の保持・増進及び疾病予防の重要性を認識する。	1) 成人看護の意義 2) 成人看護の対象の理解 (1) 成人各期の身体的特徴 (2) 成人各期の心理・社会的特徴 (3) 成人各期の発達課題 3) 成人期の健康問題と保健 (1) 成人の健康に影響する諸因子の理解 (2) 成人の健康を保持・増進するためには 4) 成人保健の動向 (1) 成人を対象とした保健政策 (2) 生活習慣病の予防 (3) 健康教育・ヘルスプロモーション 5) 成人看護の機能と役割 (1) 急性期にある患者と家族への援助 (2) 回復期にある患者と家族への援助 (3) 慢性期にある患者と家族への援助 (4) 終末期にある患者と家族への援助	桑原晴美
成人看護方法論 I	3	75	2	1. 健康障害が成人の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響について理解できる。 2. 急性期、回復期、慢性期、終末期の特徴を踏まえた看護を理解できる。 3. 主要症状とその治療、処置、検査における看護について理解できる。	1) 成人看護演習	桑原晴美 山田明子 他外部講師
			1 2		2) 成人の健康障害に応じた看護 (1) 呼吸機能障害 (2) 消化機能障害 (3) 循環機能障害 (4) 造血機能障害	
成人看護方法論 II	2	60	2		3) 成人の健康障害に応じた看護 (1) 運動機能障害 (2) 脳神経機能障害 (3) 栄養・代謝機能障害 (4) 女性生殖機能障害 (5) 腎・排尿機能障害 (6) がん看護	國田菜穂 山田明子 内山 泉 他外部講師

老年看護学（4 単位：105 時間）

学科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
老年看護概論	1	30	1	高齢者の特徴や生活、健康問題、高齢者を取り巻く社会環境を学習し、看護の機能と役割を思考する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の高齢者の見方 2. 個人としての高齢者の理解 3. 高齢者の多様性の理解 4. 高齢者の健康 5. 高齢社会における社会保障 6. 老年看護学における倫理的な課題 7. 高齢社会の展望 	氏原葉子
老年看護方法論	1	30	2	高齢者の多様性の理解と複雑な情報を読み解き、アセスメントができるようになる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のアセスメントの特徴 2. 高齢者のフィジカルアセスメント 3. さまざまなシーン（生活の場、健康の段階、症状、治療など）における高齢者のアセスメント 	氏原葉子 他外部講師
	1	15	2	老年期に多い、健康障害をもつ患者の看護を学ぶ。	老年期に多い健康障害を持つ対象の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折 ・パーキンソン病 ・認知症 	國田菜穂 氏原葉子
	1	30	2	高齢者の特徴をふまえた看護援助の方法を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 片麻痺の高齢者の体位変換、起居動作・車椅子移乗・トイレでの排泄援助 2. 終末期にある高齢者の摘便、尿便失禁後の陰部洗浄・オムツ交換 3. 認知症高齢者とのコミュニケーションとアクティビティケア 4. 口腔ケア、食事介助、爪切り、義歯のケア、歩行介助 5. エンゼルケアの意義と援助方法 	今泉沙織 他外部講師

小児看護学（4単位：105時間）

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
小児看護概論	1	30	2	1. 健康的な小児の成長・発達が理解できる。 2. 小児を取り巻く家族および社会環境、法律や保健対策 および保健活動の実際から小児の健康課題を理解し、社会や家族の役割について理解できる。	1) 小児の対象理解の基礎知識 (1) こどもの権利条約 (2) 小児の医療・保健・福祉・教育の動向 (3) 小児をめぐる法律および保健・医療・福祉・教育の施策（地域における保健事業も含む） (4) 成長発達に関する理論 (5) 成長発達の特徴 (6) 現代社会における小児の諸問題 (7) 小児看護に求められる看護倫理 2) 小児期の区分 3) 小児と成長と発達 4) 形態的成長 5) 機能的発達 6) 精神運動発達 7) 心理社会的発達 8) こどもを知る（こどもウォッチング）	菅谷周子
小児看護方法論	3	75	2	1. 小児各期の特徴を踏まえ、健康維持増進と成長・発達を遂げるための日常生活の援助について理解できる。	1) 小児看護の役割 2) 子どもの発達に応じたセルフケアと健康増進のための看護 (1) 子どもの基本的な生活習慣およびセルフケア獲得への援助 (2) 子どもとのコミュニケーション (3) 子どもの遊びと学習への援助 3) 子どもに起こりやすい健康問題とその看護 (1) 発熱 (2) けいれん (3) 下痢・嘔吐・脱水 (4) 呼吸困難、痛み (5) 事故と救急 4) 特別な支援を必要とする子どもと家族への援助 5) 発達段階に応じた日常生活の援助技術 (1) 調乳・授乳・離乳食調理 (2) 全身清拭・陰部洗浄・おむつ交換・身体計測	監物佳子
				2. 健康障害をもつ小児とその家族への援助について理解できる。（事例展開を含む）	1) 子どものさまざまな疾病の経過と看護 2) 健康障害や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 (1) 外来における子どもと家族への看護 (2) 入院における子どもと家族への看護 3) さまざまな健康問題を抱える子どもと家族への看護 (1) 周手術期の子どもと家族への看護 (2) がんの子どもと家族への看護 (3) ハイリスク新生児とその家族への看護 (4) 小児在宅看護 (5) 医療的ケア児と家族への支援 4) 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 (1) 小児看護援助技術 ①バイタルサインの測定 ②与薬 ③検査・処置 (2) プレパレーション	監物佳子 他外部講師
			3. 小児の主な健康障害とその治療について理解できる。	1) 小児の主な健康障害とその治療 (1) 消化器 (2) 呼吸器 (3) 循環器 (4) 血液 (5) 感染症 (6) 免疫 (7) 代謝 (8) 泌尿器 (9) 耳鼻咽喉 (10) 神経 (11) 遺伝子病など	外部講師	

*プロジェクト学習の令和2年度のテーマは

小児看護学概論：「子育て応援プロジェクト」→グループ学習

小児看護学方法論：「子どもの健康を守る看護師を目指そう」→個人学習、「Let's プリパレーション」→個人学習

母性看護学 (4 単位 : 105 時間)

学科目	単 位	時 間	学 年	科目のねらい	学習内容	講師名
母性看護 概論	1	30	2	<p>1. 女性の発達段階を踏まえて母性の特性や看護の理念を理解する。</p> <p>2. 母性を取り巻く社会環境の変化とライフステージ各期の特徴を理解し、生涯を通じた健康の保持・増進への援助を理解する。</p>	<p>1) 母性看護の基盤となる主要な概念 (1) 母性とは (2) リプロダクティブヘルス/ライツ (3) 母性看護の理念 (4) 母性の世代間伝達</p> <p>2) 母性看護の対象を取り巻く社会環境の変遷と現状 (1) 女性のライフコースの変化と母子保健統計 (2) 女性の直面している現状と課題 (3) 母子保健に関する法律と施策 (4) 母性看護における倫理 (5) 母性看護の対象理解 (1) 形態・機能の変化 (2) 性分化のメカニズム (6) 女性のライフステージ各期の健康問題と看護 (7) リプロダクティブヘルスケア</p>	松下万里子
母性看護 方法論	2	45	2	<p>1. 妊娠・分娩・産褥の各期および新生児の生理的变化に対する健康の保持・増進への看護について理解する。</p>	<p>1) 妊娠期にある人々への看護 (1) 身体的特性 (2) 心理・社会的特性 (3) 妊婦と胎児のアセスメント (4) 妊婦と家族への看護</p> <p>2) 分娩期にある人々への看護 (1) 分娩の要素 (2) 分娩の経過 (3) 産婦と家族への看護</p> <p>3) 新生児期の看護 (1) 新生児の生理 (2) 新生児のアセスメント (3) 新生児の看護</p> <p>4) 産褥期にある人々への看護 (1) 産褥経過 (2) 褥婦のアセスメント (3) 褥婦と家族への看護</p>	岡本 千晶 内山 泉
	1	30	2	<p>1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。</p> <p>2. 妊娠・分娩・産褥の各期に必要な主な診断と治療について理解する。</p> <p>3. 妊娠・分娩・産褥および新生児の異常と看護について理解する。</p> <p>4. 周産期の看護過程を理解する。</p>	<p>1) 出生前からのリプロダクティブヘルスケア (1) 遺伝・出生前診断 (2) 不妊治療</p> <p>2) 周産期の診断と治療</p> <p>3) 妊娠の異常と看護 4) 分娩の異常と看護 5) 新生児の異常と看護 6) 産褥の異常と看護 7) 周産期の看護過程</p>	内山 泉 他外部講師

精神看護学（4 単位：105 時間）

学科目	単 位	時 間	学 年	ねらい	学習内容	講師名
精神看護 概論	1	30	1	1.人間の健康な心の働きを理解できる 2.現代社会の問題と心の問題との関連に気づき、精神の健康保持増進の重要性を理解できる	1) 心の働き 2) 心の仕組みと発達理論 3) ストレスとコーピング 4) 精神的危機と看護 5) 社会への適応 6) 精神保健の変遷 7) 精神の健康と保持増進	中村 明子
精神看護 方法論	1	15	1	1.精神障害者の人権について考え、社会生活を支援するためのシステムを理解できる	1) 精神障害とは 2) 精神障害と法制度 3) 精神障害者の社会生活を支える保健・医療サービス 4) 精神保健の現状と対策	今泉 沙織
	1	30	2	1.精神機能障害を理解できる 2.身体疾患を持つ患者への精神面の援助を理解できる	1) 精神疾患と不適応 (1) 精神症状 (2) 精神障害の診断と分類 (3) 精神障害の治療 2) 身体疾患と不適応 (1) 身体疾患と精神看護 (2) 看護カウンセリング (3) リエゾン精神看護 3) 心理検査と心理療法	外部講師
	1	30	2	1.精神機能障害を持つ患者の再適応への援助を理解できる	1) 精神障害者にとっての入院の意味とアセスメントの視点 2) 治療的対人関係を築くための技術 3) 精神障害者を理解する 4) 再適応への援助 5) 事例展開 6) 精神障害者との出会いから別れまで	今泉 沙織

在宅看護論 (4単位:105時間)

学科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
在宅看護 概論	1	15	1	1. 健康障害を持ち在宅で生活している人に対する看護の意義を理解する。	1) 在宅看護の概念 2) 在宅看護の変遷 3) 在宅看護を支える訪問看護 4) 在宅看護の実際 5) 在宅療養者の権利保障	須藤晃代 他外部講師
在宅看護 方法論	1	30	2	1. 在宅に関係する看護活動とその特徴について理解する。 2. 在宅医療における家族介護をとりまく現状を理解する。 3. 在宅療養者を支える保健・医療・福祉システムの現状と望ましいサービスのあり方について理解する。 4. 療養者の主な疾患と健康課題を理解する。在宅療養者の症状、状態別の訪問看護の展開と他職種との協働について理解する。	1) 地域ヘルスプロモーション活動 (1) 在宅看護における連携(退院支援活動) (2) 地域保健事業 (3) 地域の中の在宅看護 2) 地域のヘルスケアシステム (1) 地域包括支援センターの役割 (2) 在宅看護における倫理的課題とその対応 (3) 地域包括ケアシステムの構築 3) 関係職種と社会資源 (1) 在宅看護に関わる法規 (2) 関係機関と関係職種 (3) 在宅看護に関する経済的側面 (4) 関係職種との連携 (5) 介護保険と関係職種の機能 4) 在宅療養者の主な疾患と症状、状態別看護事例による在宅看護の展開(脳血管疾患、難病、認知症、感染症)	須藤晃代 他外部講師
	1	30	2	1. 対象が在宅で療養する意味を理解し、日常生活を中心とした在宅看護技術の基礎を習得する。	1) 在宅療養者の日常生活援助 (1) 在宅看護援助の基本 (2) 在宅での日常生活援助の実際 ①在宅療養と住生活②衣生活 ③食生活④排泄⑤清潔⑥移動 ⑦災害対策・受診⑧服薬管理 ⑨睡眠	須藤晃代
	1	30	2	2. 特殊な技術を伴う在宅看護技術の基礎を習得する。	1) 特殊な技術を伴う在宅看護 (1) 在宅酸素療法 (2) 人工呼吸療法 吸引・気管切開口のケア (3) CAPD療法 (4) 排尿障害・ストーマケア (5) 褥瘡ケア (6) 経管栄養・在宅中心静脈栄養 (7) 疼痛コントロール	外部講師
	1	30	2	1. デンマーク王国オーデンセ市の歴史および社会的背景をふまえ、先駆的な社会福祉施策および在宅ケアの理念とそのシステムの現状を、日本と比較しながら見聞し、視野を広げる。 2. 在宅看護の実際を見学し、地域の中で療養する人々やその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割の実際について学ぶ。	1) デンマーク王国オーデンセ市の在宅ケアを取り巻く諸事情を理解する。 (1) 保健・医療・福祉制度の概要 (2) 在宅看護の歴史の変遷及び取り組み (3) 看護教育 (4) さまざまな施設・場で活躍する看護の役割(連携) 2) デンマーク王国オーデンセ市における在宅ケアの実際を理解する。 (1) 高齢者の生活と在宅施設のあり方 (2) 在宅における看護の機能と役割	担当教員 (引率教員) 社会保障と 合わせて確 認のこと

看護の統合と実践 (4 単位 : 105 時間)

学科目	単位	時間	学年	ねらい	学習内容	講師名
看護の統合 I	2	45	2 ～ 3	研究の基礎を学び、科学的な思考の必要性を理解する。一つのテーマを追求するプロセスを通して自ら学ぶ姿勢を養い、その基盤を育成する。	1. 研究の意義 2. 研究の種類と方法 3. 研究への手がかり 4. 看護研究の進め方 5. 文献検索の方法 6. 文献検索の実際 7. 研究計画書の重要性 8. 看護研究における倫理的配慮 9. ケーススタディの展開 10. 文献研究の実際 11. ケーススタディの実際	松下万里子
看護の統合 II	1	14	2	医療安全の基盤となる考えを知り、看護師として責任ある行動をとるための基礎知識や技術を理解する。	1. 医療事故予防及び安全の基盤となる考え方 2. 看護・医療事故を予防するための方法 3. 新人看護職に必要な情報収集 4. 患者、家族からの暴力への対応	桑原晴美
		16	2	災害・救急直後から支援できる看護の基礎知識や技術を理解する。さらに看護学原論 I において国際看護の基礎的知識を既習したうえで、国内にとどまらず諸外国と協力していくことの必要性について考える。	1. 災害とは 2. 災害への対応と備え 3. 災害看護とは 4. 災害サイクルに応じた看護活動 5. ケア提供者自身の防衛 6. 災害看護における倫理的課題 7. 救急看護の特性と看護の視点 8. 救急時の全身状態と観察の対応 9. 主な救急ケアのポイント 10. 心肺蘇生法	須藤晃代 他外部講師
	1	30	3	患者を取り巻く医療関連職種がチーム医療においてどのような役割を果たしているのかを理解する。また、医療関連職種と看護師との連携の在り方や医療職種の中での看護師の役割について考えることができる。 臨床において日常的に求められる身体侵襲のある技術や実務に即した複合技術を実践することができる。	1. チーム医療における連携 1) 臨床検査と看護 2) 理学療法と看護 3) 医療用機器と看護 4) 診療報酬と看護 5) 感染管理 6) 看護管理 7) 災害時連携 2. 技術演習 1) 複合技術 2) 静脈血採血	中村明子 内山 泉 須藤晃代 他外部講師

VI 実習場所・進度一覧

	科 目	単 位		実 習 場 所	1 年	2 年	3 年		
		単位	時間/週						
専門分野 I	基礎看護学実習 I	1	45	2	船橋市立医療センター A-4 A-5 A-6 A-7 B-3 B-4 B-5 B-6 E-3	—			
	基礎看護学実習 II	2	90	3					
専門分野 II	成人看護学実習 I	2	90	3	船橋市立医療センター A-4 A-5 A-6 B-3 B-5		—		
	成人看護学実習 II	3	135	4					
	成人看護学実習 III	1	45	2	船橋市立医療センター 手術室 ICU 船橋市立リハビリテーション病院			—	
	老年看護学実習 I	2	90	3	復光会介護老人保健施設 やすらぎ			—	
	老年看護学実習 II	2	90	3	船橋市立医療センター B-6			—	
	小児看護学実習	2	90	3	船橋市立医療センター A-7 船橋旭こども園			—	
	母性看護学実習	2	90	3	船橋市立医療センター B-4			—	
	精神看護学実習	2	90	3	復光会総武病院			—	
	統合分野	在宅看護論実習	2	90	3	船橋市 保健所 保健センター 沖縄徳洲会訪問看護ステーション ほのぼの 前原ハート 訪問看護ステーション 訪問看護ステーション きやろつと			—
		看護の統合と実践	2	90	3	船橋市立医療センター A-3 A-4 A-5 A-6 A-7 B-3 B-4 B-5 B-6 E-3 E-4			—
	合 計	23	1035						